

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1148 2015年11月号

講演会「四国の地質の謎に迫る」を開催

四国の治山・林道を主とする森林技術者の技術向上を目的とし、「四国の地質の謎に迫る」と題して、地球科学者 平 朝彦 氏の特別講演会を開催しました。

【詳細は2頁】



講演会「四国の地質の謎に迫る」の開催について

〈治山課〉

一〇月二三日、四国の治山・林道を主とする森林技術者の技術向上を目的とし、「四国の地質の謎に迫る」と題して、地球科学者平朝彦氏（国立研究開発法人海洋研究開発機構理事）の特別講演会を開催しました。

当日は四国各県の担当者をはじめ、調査設計業務の技術者や森林土木工事、林業の請負事業者等から一二〇名以上の参加があり、会場となった四国森林管理局大会議室は立ち見が出るほどの盛況でした。

講演者の平朝彦氏は米国で学位を取得後、高知大学、東京大学で教鞭を執り、現在は国立研究開発法人海洋研究開発機構理事長の職にあります。これまで四万十

帯の研究をライフワークとしており、その研究成果は世界的に評価が高いものがあります。また、一般向け解説書の著作も多数あり、素人にもわかりやすい説明が出来る研究者として定評があります。

講演内容については、四十帯が形成された過程の解説、四十帯、秩父帯、三波川帯等の地質構造の特徴等について研究データ、現場写真を用いて具体的に説明して頂き、また、地球深部探査船「ちきゅう」等を駆使した深海の海底下の地質調査によって四国の地質構造の成り立ちが解明されたことや、現場での化石調査によって今後も新たな事実が明らかにされる可能性

を秘めていること等、スオーバーしていたにもかかわらず、丁寧な解説を頂きました。

参加者からは、今回の特別講演によって感化されたことにより、より実体的な研修として、今後、崩壊地等における現地検討会や地すべり調査により採取したコアの判定に係る勉強会等を実施したいという意見が多く出されました。

く木育で広がる木（気）づかいの輪く 『高知もくもくランド2015秋まつり』参加して

〈技術普及課〉

一〇月二四・二五日と、二日間に渡り高知市中央公園で高知県と高知県木材普及推進協会の主催による、第一一回高知もくもくランド2015秋まつりが開催され、二〇、〇〇〇人（主催者発表）を越える人々が賑わいました。初日のオープニングセレ



講演会の様子

挨拶する大山局長



また、住宅相談や地震対策、リフォーム相談など、

しました。

高知県産材の普及を目的に開催され、木造住宅の設計士、工務店、木材店などエコ製品を扱う様々な業種の企業等が五七ブース出店

モニターでは、大山四国森林管理局長をはじめ関係者が挨拶及び丸太カットを行い、その後もち投げをしてスタートしました。

木材を使った建築に関する総合的な相談会の場にもなっています。

当森林管理局は、今年はパネル展示だけでなく「木のおもちゃで遊ぼう」をテーマに、四国山の日賞受賞団体の紹介パネル展示に加え、ビンゴゲーム、ドアノブ飾り作りを行いました。

オープニングセレモニー終了と同時に「ジージーズミ」や「ケロケロカエル」をゲットしようと大勢の親子連れがビンゴゲームに夢中になっていました。ビンゴゲームに挑戦した児童は二日間で約六〇〇名でした。

一方、ドアノブ飾り作りは、二日間で五九名の児童が参加しました。参加者の中には、愛媛県大洲市から



大勢の父兄で賑わった局のブース

の親子連れや高知県内からは、東は香南市夜須町、西は土佐市から来た人もいました。作品は、見本を忠実に再現したものや、アレンジした力作もあり職員も驚いていました。

当森林管理局のブースは、両日とも長蛇の列で盛況でしたが、一番の目的である「四国山の日賞受賞団体」の紹介パネルを見てく

れる父兄が少なく、この点については来年への課題だと考えています。しかし、木のオモチャで遊んでもらったり、木製のクリスマスリースを作ったりすることで「四国森林管理局」はこういうことをしているのだという存在感を示すこと

と考えています。今後とも、このようなイベントに積極的に参加し、木工教室での作品づくりや木製おもちゃ等での遊びを通して木のぬくもりや、良さなどをPRして行きたい

平成二七年度森林総合監理士育成研修事業「技術者育成研修四国ブロック」及び「実践研修四国ブロック」実施

〈森林技術・支援センター〉

林野庁では、平成二五年合監理士」制度が始まりま

度に従来の林業普及指導員した。

また、平成二三年度から二六年度から都道府県職員実施していた「准フォレスター研修」に代わって、平成二六年度から「技術者育成研修」となり、二年目の

実施となります。

森林総合監理士候補者を育成するため、「技術者育成研修」及び「実践研修」を実施するものです。

研修の講師には、林野庁及び当森林管理局の担当者をはじめ、研究者や団体職員等の外部講師の協力を頂きました。

「技術者育成研修四国ブロック」は、九月二十九日～一〇月二日までの間に実施しました。東京都内での中央研修を終えた研修受講生一八名（県職員二名、国有林職員五名、法人職員一名）を対象に、四国ブロックとして高知市で実施しました。

開講式では、木村業務管理官から激励の挨拶があり、早速、酒井外部講師による

「森づくりの構想（目標林型と施業方法の選択）」の講義から始まり、資源循環利用構想演習が行われました。



森づくり構想実習(喜代須山国有林)

二日目は、高知県中土佐町内にある喜代須山国有林で「森づくり構想実習」として、目測による森林現況を数値で算出し目標林型等の検討や発表を行いました。

午後から、同じく中土佐町内にある新道山国有林外で、一、〇〇〇haの森林における一〇年間の事業計

画について、現地を確認し検討を行う「資源循環利用構想演習」を行いました。三日目は高知市内の研修会場にて、「現地実習を踏まえた路網の整備計画と木材供給ビジョンの検討」と翌日の発表資料の作成を行いました。



資源循環利用構想演習(新道山国有林外)

四日目となる最終日は、班毎に首長に対するプレゼンを想定した発表を行い、活発な意見交換が行われました。



路網整備計画と木材供給ビジョンの検討

閉講式では、大山森林管理局長から今後の活躍を期待するエールの挨拶を頂き四日間の研修を無事に終了しました。

四日間の研修カリキュラムでは実習・演習の時間に限りがあったものの、受講生は各課題に真剣に取り組み、森林総合監理士の役割と重要性を理解するとともに、やり甲斐や困難さを認識するも、目標を定めて取り組み覚悟が感じられました。

た。

一〇月二七日～二八日までの日程で、「実践研修（現地検討）四国ブロック」を実施しました。

当研修は、地域の特性等を踏まえた、森林・林業の再生への課題を設定し、現地での検討を通して課題の背景と解決策を共有することを目的に実施するものです。

実施に当たっては、外部講師の方々のご協力を頂き、「木質バイオマス発電施設等の稼働に伴う流域における原木増産体制システムの現状と課題」と題し、川下の需要動向を踏まえた安定的な木材生産の戦略を描ける能力の習得と実践的な助言ができる人材の育成

を目的に行いました。

これまでのブロック研修等の受講生も含め、希望者を募ったところ、四国四県はもとより、大阪府、和歌山県からの参加者もあり、総勢二〇名(県職員一四名、国有林職員六名)を対象に、当森林管理局二階大会議室にて実施しました。

開講式における、木村業務管理官からの激励の挨拶の後、香美森林組合野島代表理事組合長から「高知県における林業の現状課題とその対策等について」と題した講義と「熱い情熱を持つて、地域の森林・林業の牽引者となれ」の激励の言葉をいただきました。

その後、高知県香美市香北町(民有林)において、

バイオマス原料等、木材需要増大に伴う増産体制に向けた搬出システムを実施している香美森林組合の皆伐事業地への現地視察を行い、森本参事からの説明を受けました。



香美森林組合皆伐事業地見学

現地は約二〇haの皆伐地において、外国製タワーヤードや自動運転機能付き搬器、オートチョーカーなどを利用した架線集材方法で木材搬出事業を展開するとともに、一般材とバイオ

マス発電用木材の仕分けを行っていることから、研修生は大いに興味を示し、多くの質問がなされ、活発な意見交換が行われました。



グループ検討結果の発表
「搬出システムの選択理由」

二日目は、①「地域の林業に対するフォレスターとしての見方と対応について」(田口森林整備部長)、②「高知県の原木増産体制づくりに向けた取組について」(高知県木材増産課金子課長補佐)の講義を受けました。

研修生はフォレスターとして、常に広い視点から全体を意識して行動することが重要であること等の理解を深めていました。



講義の様子(田口森林整備部長)

その後、香美市土佐山田町繁藤にある香美森林組合繁藤ストックヤードの見学、高知市仁井田にある高知県木材株式会社の見学を行いました。

午後からは、高知市仁井田にある土佐グリーンパーク(株)の木質バイオマ

ス発電施設を見学しました。

研修生はこれから地域で拡大するであろう木質バイオマス発電施設の最新の設備に大いに興味を示し、予定の時間を超過するほどの活発な意見が出されました。

最後に、研修会場にて、「今後フォレスターとして、やってみたいこと」をテーマに各班毎の発表を行い、全体で共有を図り、最後に講師等から発表内容に対する助言と激励のコメントがありました。

閉講式では、田口森林整備部長から将来のフォレスターへエールを込めた挨拶があり二日間の研修を無事に終了しました。

二日間の研修カリキュラムとしては、盛りだくさん



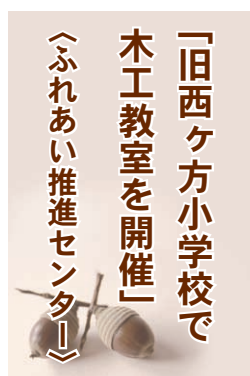
木質バイオマス発電施設
(土佐グリーンパワー(株)土佐発電所) 見学

な内容となり、検討時間の短さを指摘されたものの、現場を目の当たりにし、現場の声を直接聞いたことは、研修に格段の説得力が加わり、研修生からはとても充実した内容であったとの意見を聞くことができました。今後においても、地域に貢献できる人材の育成を図るため、更なる研修の充実を図り、将来に繋げて行くこととします。



木工クラフト完成、ヤッター

高知県四万十市立西土佐小学校より、「校区内に四万十川森林ふれあい推進センターがあることを



各地のたより



知り、木工体験を通じて、

ふれあい推進センターや西ヶ方地域に親しみを持ちたい。」との話があり、

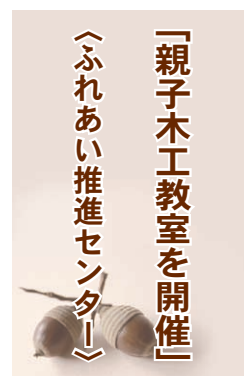
一〇月二二日、二年生一六名を対象に、旧西ヶ方小学校の教室で、小枝を使ったストラップ及び鉛筆作りの木工教室を開催しました。

先に、作り方を説明したのち、児童達が、各キットをボンドで接着し、色付けをして約六〇分程で作品が完成しました。

わずかな時間の木工教室でしたが、児童は、木とふれあい、完成後には、みんなに「難しいと思ったら、

簡単に上手できた。」「楽しかった。」「また作りたい。」「との感想で、とても喜んでいました。

後日、学校より校内報「げん気」と感謝のお手紙をいただきました。



一〇月二四日、高知県四万十市立中村南小学校で、四年生三二名と父兄等を対象に、「親子木工教室」を開催しました。

最初に、「森林のはたらき」について説明し、森林には「水を蓄える」、「土砂崩れを防ぐ」、「快適な環境を作る」などの大切な働き

木工教室の様子



があることを学習しました。

次に怪我のないよう、模範演技を見せながら、道具の使用方法や製作時の注意点について説明した後、サクラ、ミズメ、ヒメシヤラなどの木の枝を使って自由製作に挑戦しました。

児童は、ノコギリやクラ

フトナイフ、剪定バサミなどを使い、先生や職員の手助けも受けながら、自分達で工夫をし枝を加工し、クマやカブトムシ等の置物やくまモンのストラップなどの作品を完成させていました。

授業参観の機会に、児童と父兄等と一緒に、木を使って工作ができたことで、森林の大切さや木材利用についての理解を深めてもらえたと思います。



山林火災 「森林・山は一つ」

〈徳島森林管理署〉

一〇月一九日午後〇時半頃発生した徳島県那賀町木頭折字の山林火災は、一〇

月二六日の鎮火までの間、上空から香川、愛媛、徳島県の消防防災ヘリコプター及び自衛隊のヘリコプターの計六機で百数十回にわたって、計一〇〇t余りを放水し、更に地上からも地元消防隊や消防団の計九〇人余りが複数班に分かれ、徒歩で最大二時間半余りをか

けて延焼箇所及び周辺山林との境目を手動ポンプ（ジェットシューター）等で懸命なる消火活動にあたった結果、漸く、二六日午後一時に「鎮火宣言」が発せられました。

この度の山林火災の焼失面積は二〇ha余りであり、消火活動にあたっては、当署から、二〇日に三名、二一日に一名、さらに二二日には本部からの要請を受け五名を派遣するとともに併せてジェットシューター等の諸機材も提供しました。

四国森林管理局では、山林火災は、出火元が民有林、国有林に関わらずその対応を行っています。

これは、地域・地元住民

にとつては「山は一つ」であるだけではなく、なによりも各地域に賦存・位置する「国有林・国有林野事業が果たすべき役割の一つ」であるからです。

小豆島で「巨木を語る全国フォーラム」を開催

〈香川森林管理事務所〉

全国から巨木の愛好家が集まり、巨木や自然環境の保護について考える「第二八回巨木を語ろう全国フォーラム」が一〇月三一日、香川県小豆島町のサン・オリーブで開催されました。

雨が少ない瀬戸内・小豆島ですが、樹齢一五〇〇年

を超えるシンパク（ミヤマビャクシン）や全国最大級のソテツをはじめ多くの巨木が存在しています。

フォーラムは、全国から約四〇〇人を集め、苗羽小（二四の瞳の舞台となった分教場の本校）音楽部の歓迎演奏で始まり、主催者等からの挨拶のあと、増田拓朗香川大名誉教授による「巨樹の保存と後継樹の育成」に向けた基調講演、さらには事例発表として、巨大シンパクを有する宝生院住職の保存への思い、苗木の植栽など水源の森づくりを続けている「美島緑の少年団」の活動、神社社叢（国指定天然記念物）の再生に向けた神浦自治会の活動等が報告されました。